

令和 7 年度

事業報告

社会福祉法人 光寿福祉会



令和7年10月 近隣自治会による秋祭り屋台練り

先ず、令和7年度の総括は何といても前年度にも増して赤字が膨らんでしまったことに尽きると思います。

しかしこの赤字に対して確実に原因究明と対策が見えてきたことが令和7年度の大きな成果といえます。

赤字の原因の大きな要因としては、特養の入居者の確保が困難な月、8月・9月があったこと、11月から12月にはコロナウイルスが蔓延して1ユニットを閉鎖せざるを得ませんでした。対策としては兎に角待機者を増やすこと、これには生活相談員を1名から2名体制にして、内1名は余裕の出来た時間は営業に出て、少しでも入居希望者を確保すること。

グループホーム千手荘は折角15床から18床にベッド数を増床してもらったにもかかわらず赤字経営になったのは、ひとえに職員の過剰配置が原因でした。今後はグループホームの介護報酬規程に沿った職員配置にすることに尽きると思います。

大きな改革としては、グリーンハウスからナリコマへの業務委託者の変更や職員のキャリアパスを見直し、手厚い介護力の向上のみならず、介護報酬加算の見直しを図ること、等。

次年度に向けた取り組みが練り上げられたことが大きな成果と言えます。

(理事長谷口恵純)

特別養護老人ホーム

利用状況

令和7年	利用人数(人) ※平均	利用日数計 (日)	稼働率(%)	入院日数計 (日)	回転率(%)
4月	70	2,100	100.0	149	92.9
5月	69	2,162	99.6	182	91.2
6月	69	2,074	98.8	237	87.5
7月	68	2,137	98.5	233	87.7
8月	69	2,145	98.8	207	89.3
9月	64	1,944	92.6	205	82.9
10月	62	1,929	88.9	123	83.2
11月	64	1,920	91.4	146	84.5
12月	60	1,885	86.9	160	79.5
1月	60	1,888	87.0	160	79.6
2月	62	1,751	89.3	106	83.9
3月	64	2,008	92.5	127	86.7
合計(平均)	65	1,995	93.6	2035(169.5)	85.7

年間平均稼働率は93.6%であり、年間を通じての目標を達成することが出来なかった。8月から9月にかけて、新規入居者4名に対して退去者10名と想定以上の稼働率低下を招いたこと、また11月から12月にかけては、コロナウィルス罹患患者増大（クラスター発生）による1ユニット閉鎖状態が続き、新規受け入れが出来なかった。さらに、例年以上の入院者（延べ2035日であり6年度の倍）が重なったこともあり、収入面での不安定化を招いてしまった。

令和7年度年間事故・ヒヤリハット報告

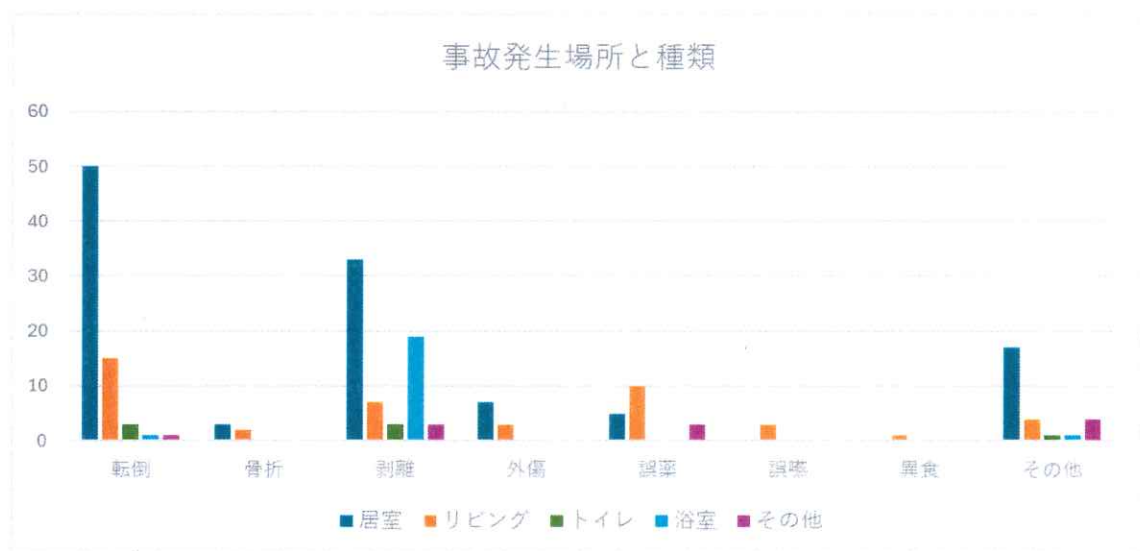
1. 事故報告

事故報告・クロス集計

	転倒	骨折	剥離	外傷	誤薬	誤嚥	異食	その他	合計
居室	50	3	33	7	5	0	0	17	115
リビング	15	2	7	3	10	3	1	4	45
トイレ	3	0	3	0	0	0	0	1	7
浴室	1	0	19	0	0	0	0	1	21
その他	1	0	3	0	3	0	0	4	11
合計	70	5	65	10	18	3	1	27	199

※転落は転倒に含む。皮下出血は剥離に含む。

※その他に含まれるもの・・・バルン抜去、離脱、窒息、利用者同士の喧嘩、セクハラ行為等



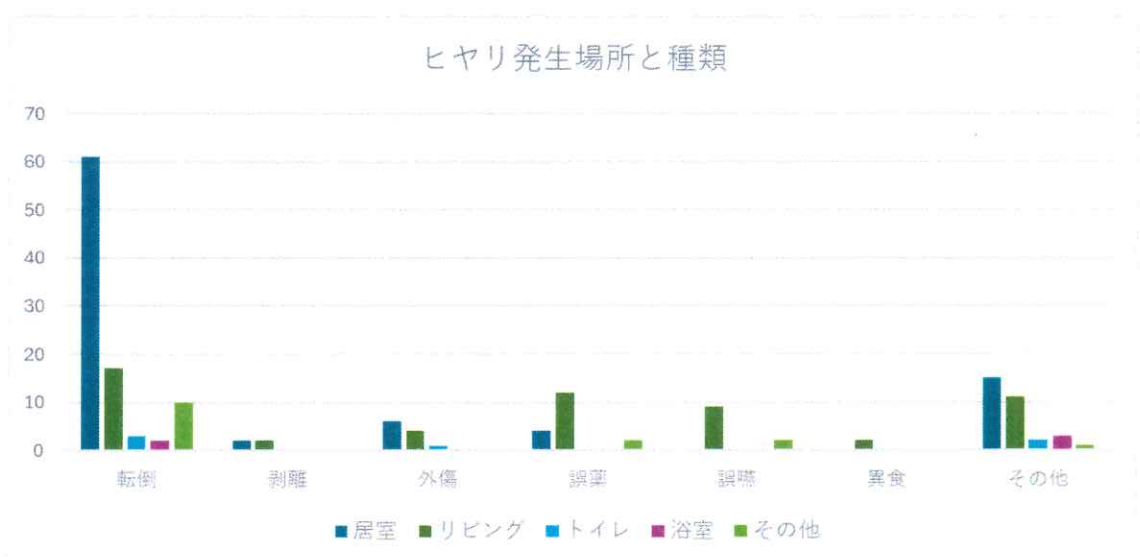
2. ひやりハット報告

ヒヤリハット報告・クロス集計

	転倒	剥離	外傷	誤薬	誤嚥	異食	その他	合計
居室	61	2	6	4	0	0	15	88
リビング	17	2	4	12	9	2	11	57
トイレ	3	0	1	0	0	0	2	6
浴室	2	0	0	0	0	0	3	5
その他	10	0	0	2	2	0	1	15
合計	93	4	11	18	11	2	32	171

※転落は転倒に含む。皮下出血は剥離に含む。

※その他に含まれるもの・・・パルン抜去、離脱、窒息、利用者同士の喧嘩、セクハラ行為等



令和7年度を受けての課題

健全で堅実な経営においては、年間稼働率 95%以上を達成することができなかった。大幅な減収となり、また人件費（派遣職員）の影響を強く受け事業所単体で黒字化には至らなかった。

健全経営には、待機者の確保が必須であるが、これまでは医療的なアプローチに偏っていた為、受け入れ間口を自ら狭めていた。現在は経営面・介護面・医療面でのアプローチとし、最終的には施設長の判断に委ねるという形に変更を行い、改善傾向にある。一方、入院者に対して、契約上では「3ヵ月を経過しても退院できないことが明らかになったとき、契約終了」となるが、入院1ヵ月後での状態把握を行い、退院の見込みがつかない場合は、速やかな退所を促す必要がある。さらに待機者に関して、競争が激化している点を管理者やリーダーはしっかりと把握しておく必要がある。

今後、受け入れ間口の拡充を図るとともに、協力医療機関との連携継続、地域での勉強会への参加、行政や各種団体主催の研修会等を通じて、外部からの情報収集を定期的に行い、安定した経営基盤につなげていきたい。また令和8年度においては、新規加算の算定に尽力したい。

良質なケアの提供においては、歯科衛生士による研修を実施し、職員のスキルの向上と法人の研修として定着させることができた。看取りケアの推進では、ユニット毎のケアそのもののレベルの差に加え、特養としての緊急時の対応や看取りをどう考えるかという根本的な課題が浮き彫りになった。多職種協働においては、看護師による喀痰吸引による研修が実施され、日々のケアの振り返りが行えた。

人材の育成・開発においては技能実習生3名が退職することなく着実に介護技術の習得に励んでいる。令和8年度5月に2名の実習生が入職している。

また資格取得のサポートについては、ほぼ目標の人数をサポートすることができ職員のモチベーション向上、さらにはケアの質向上につながったものと考えている。

地域貢献においては古知小学校からの見学、交流の受入れを実施できた。令和8年度で夢前高校としての最後の交流も予定されている。

今後も地域に選ばれる施設となれるよう職員とともに日々研鑽に努めてまいります。

【施設長 津田 剛】

ショートステイ光寿園

利用状況

令和7年	利用人数（人）※平均	利用日数合計（日）	稼働率（%）
4月	295	229	98.3
5月	314	245	101.3
6月	295	222	98.3
7月	276	212	89.0
8月	269	203	86.8
9月	251	197	83.7
10月	258	199	83.2
11月	253	195	84.3
12月	219	169	70.6
1月	220	175	71.0
2月	202	156	72.1
3月	210	154	67.7
合計（平均）	255	196	83.8

新規契約者があったものの、定期的に利用されていた方々の逝去や施設入居、入院等で稼働率が伸び悩んだ。（実数 83.8%）利用中断となっていた方が利用再開されたケースもあるので、今後は特別養護老人ホーム光寿園入居待機者を確保しつつ、利用される方のニーズに臨機応変に対応するのが課題である。

令和7年度年間事故・ヒヤリハット報告

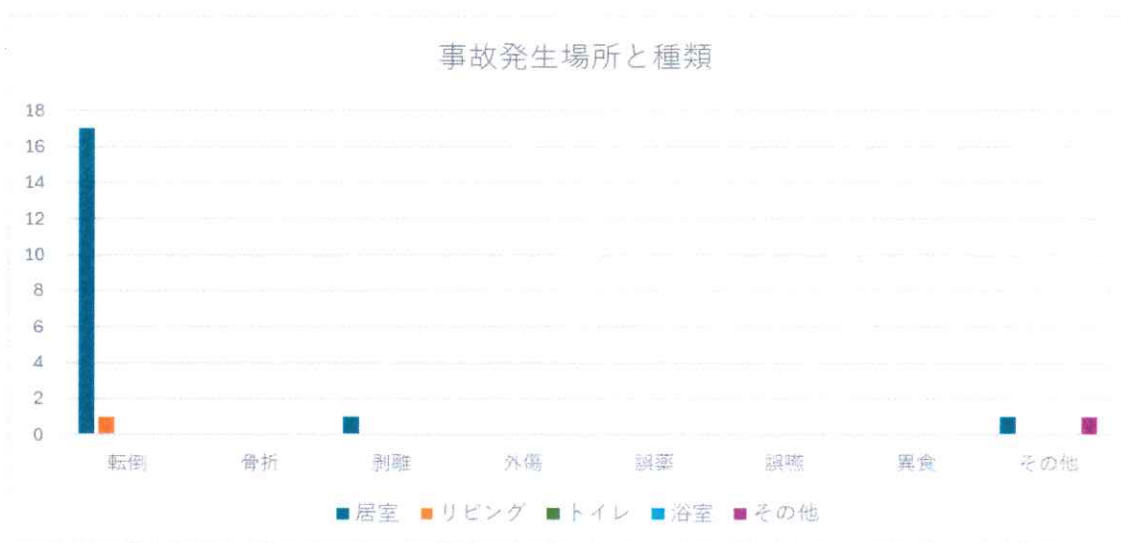
1. 事故報告

事故報告・クロス集計

	転倒	骨折	剥離	外傷	誤薬	誤嚥	異食	その他	合計
居室	17	0	1	0	0	0	0	1	19
リビング	1	0	0	0	0	0	0	0	1
トイレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
浴室	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	18	0	1	0	0	0	0	2	21

※転落は転倒に含む。皮下出血は剥離に含む。

※その他に含まれるもの・・・バルン抜去、離脱、窒息、利用者同士の喧嘩、セクハラ行為等



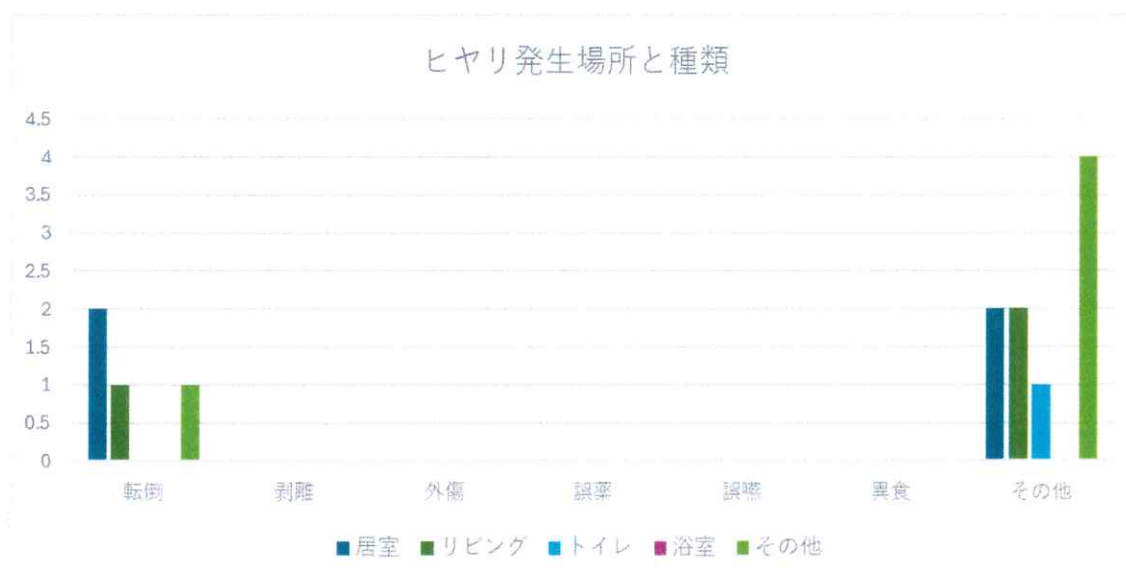
2. ひやりハット報告

ヒヤリハット報告・クロス集計

	転倒	剥離	外傷	誤薬	誤嚥	異食	その他	合計
居室	2	0	0	0	0	0	2	4
リビング	1	0	0	0	0	0	2	3
トイレ	0	0	0	0	0	0	1	1
浴室	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	4	5
合計	4	0	0	0	0	0	9	13

※転落は転倒に含む。皮下出血は剥離に含む。

※その他に含まれるもの・・・バルン抜去、離脱、窒息、利用者同士の喧嘩、セクハラ行為等



令和7年度を受けての課題

引き続き、日々の身だしなみや環境整備等も良質なケアを行うには大切なことだと考え、きめ細かなサービスを提供したいと職員一同考えております。

情報の共有は引き続き課題となります。日頃の情報共有はもとより、イレギュラーなケースが発生した場合に、ご本人、ご家族、ケアマネジャーと連携して迅速な対応ができるように確認先等を周知し職場環境を整えていきたいと思っております。

今後も地域に選んでいただける事業所になれるよう、日々ケアに邁進するとともに働きやすい職場環境を整えてまいります。

【管理者 藤原 咲】

デイサービスセンター光寿園

利用状況

令和7年	1日平均利用人数(人)	利用延べ人数	営業日数	稼働率 (%)
4月	21.0	547	26	84.2
5月	19.3	522	27	77.3
6月	19.9	498	25	79.7
7月	19.4	525	27	77.8
8月	19.1	498	26	76.6
9月	18.1	472	26	72.6
10月	18.1	489	27	72.4
11月	17.4	437	25	69.9
12月	17.0	443	26	68.2
1月	17.7	426	24	71.0
2月	16.9	406	24	67.7
3月	16.5	431	26	66.3
合計(平均)	18.3	474.5	25	73.6

4月～8月は、目標稼働率76%を達成することができた。9月以降は、入院や施設入所でのキャンセルが多く、目標稼働率には及ばなかった。(平均稼働率73.6%)

令和7年度年間事故・ヒヤリハット報告

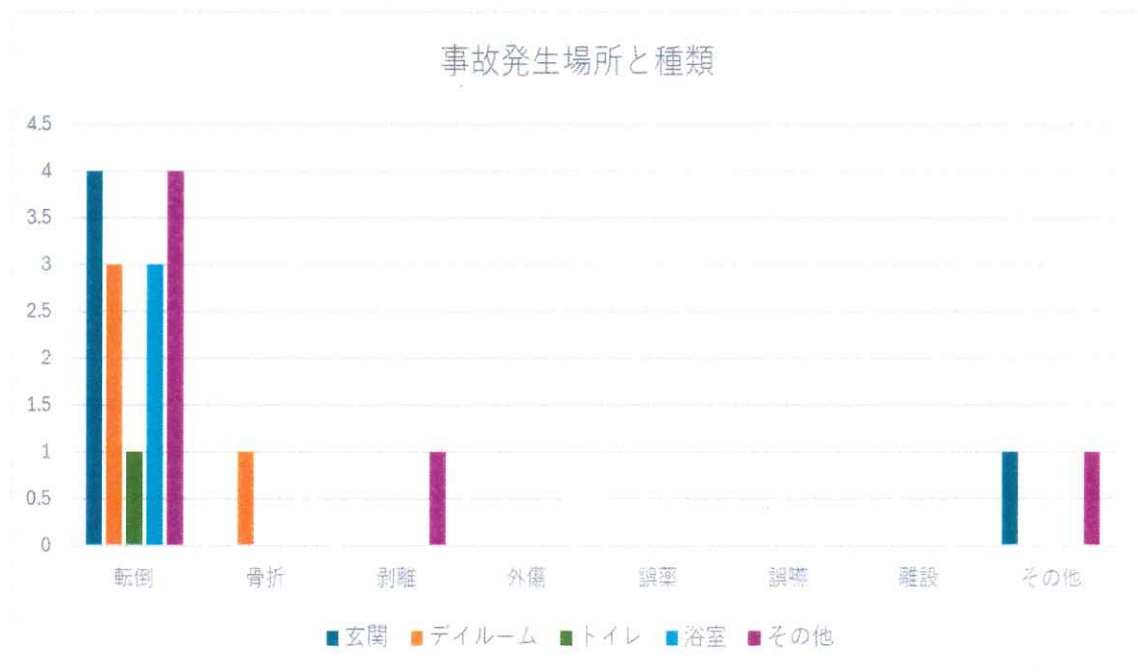
1. 事故報告

事故報告・クロス集計

	転倒	骨折	剥離	外傷	誤薬	誤嚥	離設	その他	合計
玄関	4							1	5
デイルーム	3	1							4
トイレ	1								1
浴室	3								3
その他	4		1					1	6
合計	15	1	1	0	0	0	0	2	19

※転落は転倒に含む。皮下出血は剥離に含む。

※その他に含まれるもの・・・バルン抜去、離設、窒息、利用者同士の喧嘩、セクハラ行為等



2. ひやりハット報告

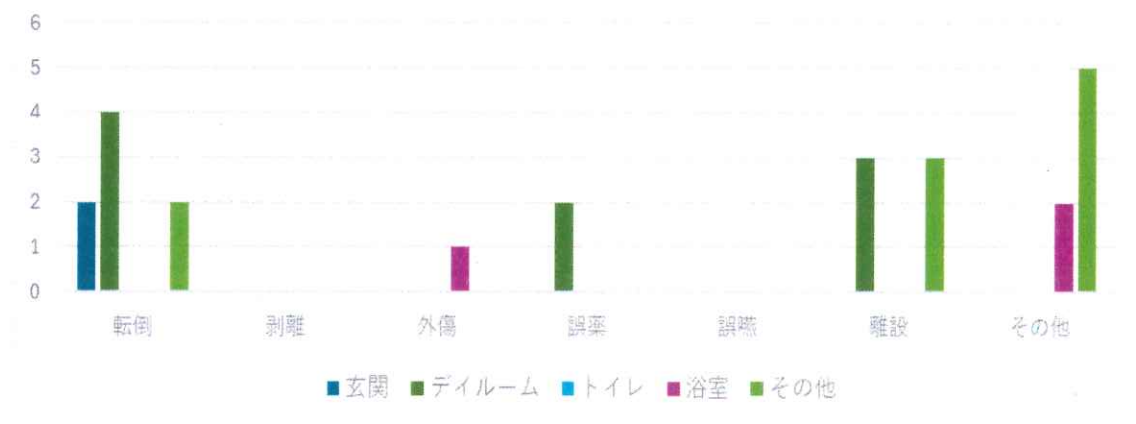
ヒヤリハット報告・クロス集計

	転倒	剥離	外傷	誤薬	誤嚥	離設	その他	合計
玄関	2							2
デイルーム	4			2		3		9
トイレ								0
浴室			1				2	3
その他	2					3	5	10
合計	8	0	1	2	0	6	7	24

※転落は転倒に含む。皮下出血は剥離に含む。

※その他に含まれるもの・・・バルン抜去、離設、窒息、利用者同士の喧嘩、セクハラ行為等

ヒヤリ発生場所と種類



令和 7 年度を受けての課題

8 月までは、平均稼働率 76%以上の目標を達成することができたが、9 月以降は、入院や施設入所でのキャンセルが多く稼働率が下がった。キャンセル数は、自己都合も含めると年間 738 件で昨年より 201 件増えた。入院や入所となる利用者が多いのに対し、新規利用者の獲得が少ないため稼働率が上がらず、新規利用者の確保が課題となった。

新しい作業や趣味活動、レクリエーションを取り入れ飽きない工夫を行うことができたが、外出行事が実施できなかった。令和 8 年度は、安全に配慮しながら外出行事を再開し、身体機能の維持、活性化を図ると共に稼働率の維持、向上に繋げたい。

令和 7 年度は、骨折事故が 1 件発生。原因分析・危険箇所を再確認するとともに、利用者アセスメントの見直しが必要となった。ヒヤリハットを活用し、職員間の情報共有を行い、見守り体制の強化で事故防止に努める。また危険予測能力向上のため、定期的に研修を実施していきたい。

加算については、令和 7 年度はサービス提供体制強化加算Ⅲを算定していたが、8 年度からサービス提供体制強化加算Ⅱに変更となった。また 8 年度は 1 名介護福祉士を取得予定のため、サービス提供体制強化加算Ⅰを目指す。

今後も積極的に介護福祉士等の資格取得や研修に参加し、職員のスキルアップを図り、利用者一人一人が安心して楽しく過ごせるサービスを提供してまいります。

【管理者 小林 知子】

居宅介護支援事業

社会福祉法人光寿福祉会居宅介護支援事業所

利用状況

令和 7 年	請求件数（人）		ケアマネー人あたりの月担当件数（人）
	要介護	要支援	
4 月	31	15	46
5 月	34	16	50
6 月	36	17	53
7 月	36	15	51
8 月	37	15	52
9 月	34	15	49
10 月	31	15	46
11 月	29	15	44
12 月	31	16	47
1 月	30	14	44
2 月	32	13	45
3 月	29	12	41
合計(平均)	32	15	47

一人体制。要介護者、要支援者ともに担当件数は減少している。目標件数 50 件に対し月平均 47 名となった。

令和 7 年度を受けての課題

前期、（他施設のロングショートステイ含む）在宅サービスを利用されていた利用者が、後期に入り施設入所となった例が 3 件。在宅復帰のない入院や逝去もあり、月平均の利用者数は 47.3 名であった。

一人体制で業務に取り組むにあたり、居宅専用の携帯電話を利用することで、外出先であっても、利用者及び家族や関係機関等と速やかに連絡・サービス調整ができるようになった。時間外や休日などの、緊急時の対応にも役立っている。

令和 7 年度も医療ニーズの高い利用者の支援は多く、急性期、回復期ともに入院期間は短くなり、退院後の「受け皿」を早急に手配するよう求められる傾向があり、病院 MSW との電話やり取りや、カンファレンス参加が増えた。

持病もあり介護度の高い利用者だけでなく、介護度は軽度でも、独居や高齢者世帯、認知症利用者のサービス調整や「受け皿」探しに費やす時間が増えてきた。

適切な担当件数を維持し、効率的なケアマネジメント業務を行い、偏りなく、担当するすべての利用者に対し、満足度の高い支援ができるように努めたい。

【管理者 志田 聖子】

地域密着型サービス事業

グループホーム（千手荘 I・II 共通）

利用状況

令和7年	利用人数(人) ※平均	利用日数計 (日)	稼働率(%)	入院日数計 (日)	回転率(%)
4月	17.3	521	96.5	0	96.5
5月	17.5	543	97.3	0	97.3
6月	17.1	515	95.4	0	95.4
7月	18.0	558	100.0	0	100.0
8月	17.6	558	100.0	12	97.8
9月	17.0	540	100.0	30	94.4
10月	15.9	549	98.3	55	88.5
11月	16.7	521	96.5	19	93.0
12月	16.7	527	94.4	8	93.0
1月	15.6	505	90.5	21	86.7
2月	17.7	497	98.6	0	98.6
3月	18.0	558	100.0	0	100.0
合計(平均)	17.1	532	97.2	12	95.1

4月と6月に体調不良者（入院）が多くなり稼働率が下がり、10月～1月にかけても体調不良者（入院）が多くなり稼働率が下がった。（平均稼働率97.2%）退所された後の新規入所までのスムーズな対応が課題となった。入院に対しては入居者の日頃の健康管理が課題となった。

令和7年度年間事故・ヒヤリハット報告

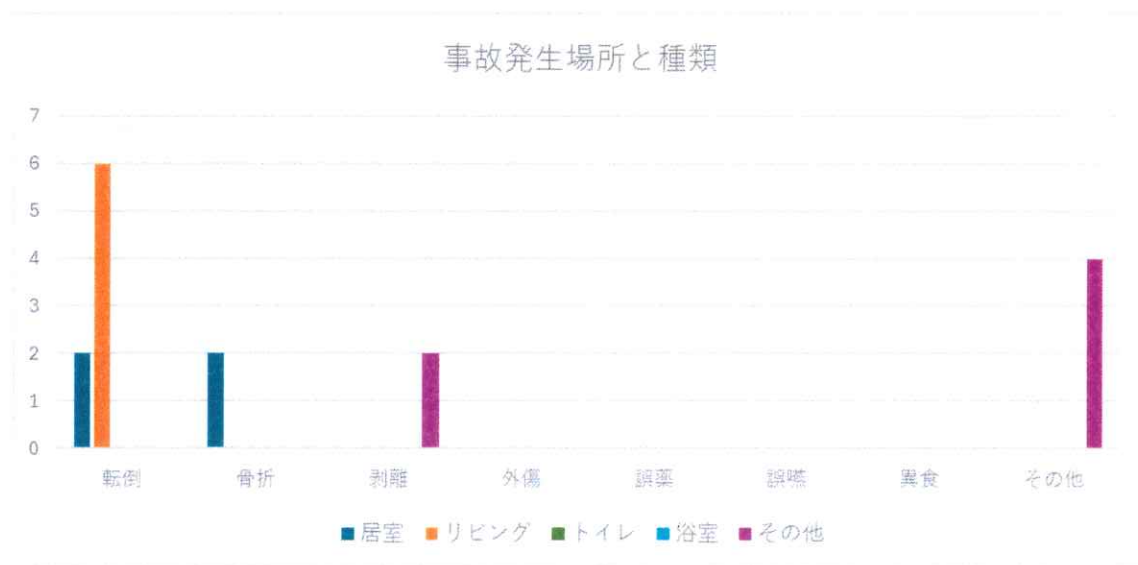
1. 事故報告

事故報告・クロス集計

	転倒	骨折	剥離	外傷	誤薬	誤嚥	異食	その他	合計
居室	2	2	0	0	0	0	0	0	4
リビング	6	0	0	0	0	0	0	0	6
トイレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
浴室	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	2	0	0	0	0	4	6
合計	8	2	2	0	0	0	0	4	16

※転落は転倒に含む。皮下出血は剥離に含む。

※その他に含まれるもの・・・バルン抜去、離脱、窒息、利用者同士の喧嘩、セクハラ行為等



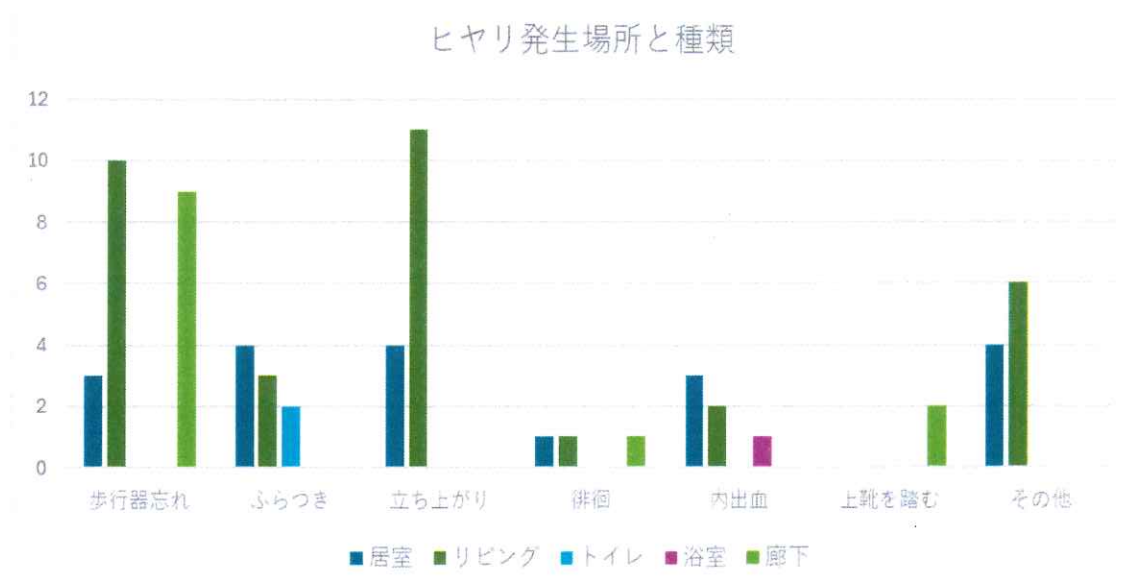
2. ひやりハット報告

ヒヤリハット報告・クロス集計

	歩行器忘れ	ふらつき	立ち上がり	徘徊	内出血	上靴を踏む	その他	合計
居室	3	4	4	1	3	0	4	19
リビング	10	3	11	1	2	0	6	33
トイレ	0	2	0	0	0	0	0	2
浴室	0	0	0	0	1	0	0	1
廊下	9	0	0	1	0	2	0	12
合計	22	9	15	3	6	2	10	67

※転落は転倒に含む。皮下出血は剥離に含む。

※その他に含まれるもの・・・バルン抜去、離脱、窒息、利用者同士の喧嘩、セクハラ行為等



令和 7 年度地域運営推進会議実施状況報告

2025 年 5 月 24 日	第 1 回実施	2025 年 11 月 22 日	第 4 回実施
2025 年 7 月 26 日	第 2 回実施	2026 年 1 月 24 日	第 5 回実施
2025 年 9 月 27 日	第 3 回実施	2026 年 3 月 28 日	第 6 回実施

令和 7 年度を受けての課題

年間稼働率 98.0%以上を目標に掲げ、95.1%と目標を達成することができなかった。また体調不良や事故件数の増加により入院者が多く稼働率が下がった。事業所規模に対して派遣社員の割合が多いことや、介護保険収入に対する人件費の割合が高くなってしまった。8 年度に向けての取組みとしてグループホーム職員全員がいつまでも健康に働いてもらえるよう、毎月のスタッフ会議にて職員一人一人に対してヒアリング（身体面、精神面の問題はないか等）を実施していきます。8 年度の目標として新たに年間稼働率 98.5%以上を維持する事を目標とする。目標に向けて①入居者の健康管理に気を付け、事故件数削減、ヒヤリハット 1 ヶ月 10 枚以上を記入し、事故による入院数の削減を目指す。②職員のスキルアップに向けて認知症実践者リーダー研修、認知症実践者研修受講者を増やし適切なケア、サービスの質の向上を目指す。③地域密着型サービスであるため年間 6 回の運営推進会議の開催を行い、地域の声に耳を傾け地域福祉に貢献していく。④苦情件数 0 件⑤感染症対策を強化しコロナ、インフルエンザ、ノロウイルス感染者 0 件を目指す。

以上の事を念頭にグループホームの理念でもある地域の学校、ボランティア組織と積極的に関わることによって社会的に刺激をもってもらえるよう努めてまいります。

【西口 拓哉】

令和7年度施設内研修実施報告

開催日時	研修内容	人数
4月10日	緊急時の対応① 緊急時に落ち着いた対応ができ、メンバーに指導できる。	14名
4月11日	理念・倫理研修 「対人援助における理念とは」理念と関連させて考えることができる。	9名
4月26日	防災ワークショップ① 参加者とともに災害対策を身近にかつ具体的に実感し関心を深めることができる。	9名
5月8日	コンプライアンス研修 各規程から法令遵守のあり方を学ぶ。	13名
5月21日	口腔ケア研修① 口腔内の評価方法を学ぶ。	16名
7月12日	防災ワークショップ② 避難所ゲームを実践することで実際の避難所運営を知る。	4名
7月16日	身体拘束虐待防止研修① より良いケアを実施するための方策をアンケート集計結果から学ぶ。	22名
7月30日	認知症研修 認知症の基礎知識と対応のあり方	12名
8月5日	新人オリエンテーション 法人の職員としての自覚ができる。	対象者
8月22日	感染予防研修① ～姫路市職員による感染予防研修～	3名
9月19日	姿勢を工夫して介護する 姿勢の理解とケアが変われば、利用者の暮らしぶりも変わる。	8名
10月17日	口腔ケア研修② 口腔内の評価方法を学ぶ。	16名
10月28日	医療的ケア研修 喀痰吸引の留意点を学ぶ。	12名
11月8日	防災ワークショップ③ 避難所ゲームを実践することで実際の避難所運営を知る。Part②	2名
11月10日	感染予防研修② ノロウイルス感染症の対応を学ぶ。	9名
11月17日	救急救命研修 救急隊から緊急時の対応を学ぶ。	17名

12月26日	感染予防研修③ マニュアルを再確認し BCP の視点で実践に備える。	75 名
1月30日	ホスピタリティマネジメント研修 素敵な接遇（ケア）を実践するために必要なポイント、 組織としてのあり方を参加者で共有する。	15 名
2月24日	身体拘束虐待防止研修② 虐待のメカニズムを理解し、不適切ケアにつながらない方策を考える。	18 名
2月26日	リスクマネジメント研修 KYT、リスクマネジメントの視点を学ぶ。	14 名
2月27日	ホスピタリティマネジメント研修② 素敵な接遇（ケア）を実践するために必要なポイント、 組織としてのあり方を参加者で共有する。	20 名
3月23日	ストレスマネジメント研修 ストレスが及ぼす影響と具体的なマネジメント方法を学ぶ。	60 名
3月24日	ハラスメント研修 法的な側面から見たハラスメントの対処方法を学ぶ。	5 名
3月30日	安全運転講習 最新の交通事情を学び、送迎時の安全運転に役立てる。	7 名
3月31日	看取り研修 ガイドラインを確認し各職種の役割を再認識する。	5 名

令和 7 年度苦情受付報告

法人運営 会議にて	内容	原因	対策
5 月	看取り対応の入居者様の目やにが拭き取れていないと家族様から問い合わせがある。（特養）	施設長ラウンド時に確認し、状態を確認する。ご家族から問い合わせがあったことをユニット内で共有する。	家族様に事情を説明し、今後、気を付けていく旨を伝え承いただく。
6 月	職員が受診の説明をした際、緊急性の解釈に相違があり家族様に不快な思いをさせてしまった。（特養）	仕事中に電話をしたため、家族様も忙しくされていた。そこに今回のような複雑な内容の話となり、家族様も余裕のない中での返答となってしまった。	家族様の状況への配慮が不足していた。そのことを謝罪し、今後もその家族様に対応を継続してもらうこととなる。
7 月	居室、フロアの空調の不具合が続いていると家族様より問い合わせがある。（GH）	高額な修理費がかかるため工事日を設定していたが家族様に伝わっていなかった。	家族様に工事日程を伝え予定通り修理を行った。

8 月	近隣住民の方より草刈り後の草が側溝に落ちているので対処して欲しいと問い合わせがある。(塩田事業所)	草刈り時の草が、側溝に落ち、近隣の方へ迷惑をかけてしまった。	担当者、施設長が謝罪をし、側溝の掃除を再度行った。
9 月	敬老会時にお弁当が到着したにも関わらず家族様に配布が遅れ待たせてしまい不快の思いにさせてしまった。(GH)	普段からの積みもり積もった小さな連絡ミス等もあり今回のことを引き金にクレームとなってしまった。GH②内でしっかりとした打ち合わせができていなかったことも要因であった。	法人運営会議、GH 運営推進会議で取り上げ、情報共有を行った。また家族様へ担当者、管理者が謝罪をする。
2 月	デイサービス利用中に利用者が転倒し骨折となる。速やかに状況説明、謝罪し苦情にならないよう状況を運営会議で共有した。(DS)	送迎前の職員が手薄になる時間帯に起こってしまった。	特に独歩の方、車いすから急に立ち上がる方等は誘導の順番にも配慮して転倒事故を未然に防ぐ。家族様に事情を説明し、謝罪を行う。苦情にはつながらず、対応に了承される。

役員会

役員会名等	実施日
監事監査 (1)	2025 年 5 月 2 日
監事監査 (2)	2025 年 5 月 19 日
第 1 回理事会 令和 6 年度決算時定時評議員会以降の理事推薦及び監事同意の件について、令和 6 年度決算時定時評議員会以降の評議員候補について	2025 年 5 月 10 日
評議員選任・解任委員会	2025 年 5 月 10 日
第 2 回理事会 令和 6 年度事業報告、決算報告	2025 年 5 月 31 日
定時評議員会 令和 6 年度事業報告、決算報告	2025 年 6 月 15 日
第 3 回理事会 理事長推薦について	2025 年 6 月 15 日
第 4 回理事会 令和 7 年度光寿福祉会中間報告、就業規則変更	2025 年 11 月 1 日
第 5 回理事会 令和 7 年度補正予算、令和 8 年度事業計画、予算	2026 年 3 月 21 日
臨時評議員会 令和 7 年度補正予算、令和 8 年度事業計画、予算	2026 年 3 月 29 日

消防訓練

事業所名	実施日（第1回）	実施日（第2回）
特養、ショートステイ	2025年7月18日	2026年3月27日
デイサービス	2026年3月5日	2026年3月27日
グループホーム	2025年9月22日	2026年3月11日

主なイベント

イベント名	実施時期
物故者法要	2025年8月6日（中止）
夏祭り	2025年10月4日（特養、ショートステイ、デイサービス）
	2025年8月23日（グループホーム）
敬老会	2025年9月15日（事業所ごとに実施）
クリスマス会	2026年12月下旬（事業所ごとに実施）
新年会	2026年1月上旬（事業所ごとに実施）